

内外交差点

それぞれが強み生かしワンチームで普及促進 子育てタクシーから見た業界の未来⑫

山崎 純氏 (NPO法人 子育て応援Seed理事長) 第12/6+12回

全国子育てタクシー協会理事の山崎と申します。日頃は秋田県秋田市で、主に乳幼児を子育て中の家族を対象にした、子育て支援に取り組んでおり、子育て支援活動を始めて20年が過ぎました。このたびは、子育てタクシーについてご紹介させていただきます。

○子育てタクシーとは

「子育てタクシー」とは、一般社団法人全国子育てタクシー協会主催の「子育てタクシードライバー養成講座」及び保育実習を修了した認定ドライバーが、専門に乗務するタクシーのことです。

養成講座では、子どもや保護者、妊婦の視点に立ち、ドライバーとしての心構えや必要な知識、乗務する際の対応などについて学びます。

国立社会保障・人口問題研究所の2021年調査によると、産後も働いている妻は約7割存在するなど、子育て世帯の中には、夫婦共に働く共働き世帯が増えています。

そのため、就学前児童の保育所等利用、就学後の放課後児童クラブ利用の子どもは増えており、保護者に代わって子どもの送迎を担う子育てタクシーのニーズは高まる傾向にあります。

○子育てタクシーと地域の子育て団体

23年3月31日現在、子育てタクシー加盟事業者は27都道府県117社、認定ドライバーは1611人が運行にあたっています。

今では、子育て世帯に認知度が高い子育てタクシーですが、その理由は事業者の努力に加え、行政、NPOのそれぞれの強みを生かしあいながら、子育て世帯を中心に「ワンチーム」として普及に取り組んできた背景があります。

例えば私が住んでいる秋田県では、11年に県庁主導で子育てタクシーが導入されました。当時の県担当職員から「ぜひ子育てタクシーの取組にかかわって欲しい。事業者だけでも、行政だけでもダメ。地域の子育てNPOがしっかりと関わる事が大切」と説明を受け、事業者とのかかわりの

中、業界と子育て世帯をつなぐ必要があり、その役割は地域の子育て団体だからできることに気がつきました。

行政側ができることには限りがあり、時に切れ目があります。それはNPO側も同様ですが、そこに目的がしっかりとあれば、主体性を持って継続し行動していく意欲が、NPOにはあります。

各事業者では、ホームページなどを通じて各社の情報を発信していますが、実は子育て世帯が、各社のホームページを見ることはあまり多くはないようです。

それよりは、実際に利用した知人からの経験談や、身近な子育て支援者からの情報提供によって子育てタクシーの存在を知ることは少なくないでしょう。またその方が、ネット情報よりも確かなリアリティがあり、自分ごととして記憶に残りやすいのです。子育て世帯の、身近な存在である子育て支援者からの情報提供は、費用をかけた宣伝費よりもより効果的なものかもしれません。

○つながりからの広がり

行政、民間、NPOなどの実行委員会で、毎年秋田市で開催されるイベント「子育て応援団すこやかあきた」は、24年に14回目を迎え、毎年多くの子育て世帯で賑わいます。

子育てタクシーも、タクシーの体験乗車を通してPRに努めますが、その際、秋田市の加盟会社が会社の垣根を超え、協力し合いながら合同で行います。年に一度の同窓会のような雰囲気でも楽しそうです。

乗車体験ブースでは、秋田県で作成いただいた子育てタクシーのリーフレットを配布するなど、ここでも官民協働のつながりの中、強みを生かしあいながら普及に取り組んでいます。

全国で展開されている子育てタクシーですが、各地域の特性を生かした多様なつながりの中、社会により良い変化を起こすきっかけになるよう、新たな広がり期待しているところです。

子育てタクシーの情報は、全国子育てタクシー協会のホームページに詳しく掲載しております。ぜひ、お仲間になりませんか？

